

コミュニティを再生する。 「尾道空き家再生プロジェクト」の取組み

ノスタルジックな町並みが特徴的な広島尾道市は、映画やアニメの舞台として取り上げられることも多く、全国的にも知名度の高いエリアである。一方で空き家は増え続けており、ディベロッパー業者等による大規模な開発も進められ、ところどころでその古きよき日本の町並みが失われつつある。このような現状をなんとかしたいと立ち上がったのが、今回ご紹介する「NPO法人尾道空き家再生プロジェクト」である。

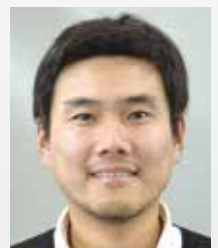
美しいまちなみが残る尾道へ

「NPO法人尾道空き家再生プロジェクト」の代表理事を務める豊田雅子氏は尾道出身のUターン移住者。高校卒業後、大阪へ進学し、そのまま大阪で旅行代理店の海外旅行添乗員として仕事に従事する。海外と日本を行ったり来たりするなかで、ヨーロッパと日本の町並みの違いを感じはじめる。町に誇りを持ち、自然と共存するヨーロッパに

し、日本はスクラップ&ビルドを繰り返して、全国どこへ行っても同じ風景になりつつあると感じていた。



NPO 商店街に面した町屋を改修しゲストハウスとして再生した。



えひめ移住
コンシェルジュ
板垣 義男

そんな時、故郷である尾道の美しさや住民どうしの距離が近い暮らしを思い出し、尾道に帰ることを決意する。古い住宅を使いながら次の世代に自然にパトナタッチできるコミュニティを作りたい。様々な思いで尾道空き家再生プロジェクトをスタートさせることとなった。まず手始めに、尾道市と協働で「尾道市空き家バンク」を開設。旧市街地の下町エリアを対象としたこの空き家バンクは、延1000人以上が利用登録しており、移住者支援だけでなく、旧市街地斜面地に家を抱えている家主さんに対してのサポートも行っている。この空き家バンク運営を皮切りに、様々な取組みを行っていく。

移住者や関係人口をも生んだ 改修プロジェクト

「NPO法人尾道空き家再生プロジェクト」が手掛ける数ある事業の中でも学生を対象にした「尾道空き家再生合宿」というプロジェクトが興味深い。このプ